



今回は、ユニセフハンド・イン・ハンド街頭募金活動の報告です。

## ◇ 2016年のテーマは『栄養不良から小さな命をまもろう』

12月23日(金)、「とれったひろば・関店」で、ユニセフ(国連児童基金)の活動に賛同しての募金活動に参加しました。テーマは『栄養不良から小さな命を守ろう』です。なぜ、今年はこのテーマなのか。以下は、日本ユニセフ協会のHPからの要約・抜粋です。

- ・年間約295万人の子どもが栄養不良で命を落とし、1億5900万人もの子どもが栄養不足で健全な成長を阻まれています。
- ・たんぱく質やビタミンAなどが足りないと、風邪などごくありふれた病気で命を落とす危険が高まります。知らず知らずのうちに子どもの知能の発達を遅らせることさえあります。
- ・ユニセフは、胎内から2歳になるまでの「出生前後1000日間」を重視し、母子をケアする検診や栄養補給、母乳育児の推進や保健員の養成など、子どもたちの命と健やかな成長を守るため、栄養不良の改善に全力で取り組んでいます。
- ・乳幼児期のなかでも身体や脳の基礎がつくられるこの大切な1000日に、母子に必要な栄養やケアが行き届けば、その後の子どもの一生を支える大きな力になります。

今回の募金活動は、生活協同組合コープぎふ中濃支所の方々や他校の生徒と一緒に行いました。生徒会執行部、放送部、コーラス部のメンバーが参加し、2万8千円ほどの寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。



## ◇ 参加した関高生の感想

自分自身二度目となる募金活動でしたが、人の前で大きな声をだすことは少し抵抗してしまいます。実際、開始はじめは慣れないこともあり、声かけを逃すことも多々ありました。しかし、多くのお客さんが、温かいお言葉と募金をしてくださり、自分自身温かい気持ちになれたし、少しでも支援のためと言葉を添える人からも、小さなことでも他人のためになることをしていかなければならないと改めて思いました。

私はまだ高校生という立場ですが、支援の方法は多種多様であるし、その募金活動のお金で何ができるのかということも、学習する機会にもなりました。ぜひ来年も参加したいです。

関高校では、生徒会や部活動の有志メンバーを中心に、ボランティア活動や啓発活動、交流会など、さまざまな実践的な活動を積極的に行う予定です。